

令和6年度 旭陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 旭陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	186	57	50	4.4	13.3
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	186	69.0	55.0	50.0	52.6	51.0	3.9	4.6	14.2	4.3	8.1
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
4月18日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	175	65.7	52.0	49.1	50.4	48.3	8.5	3.3	9.0	4.9	8.3
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	52.6	54.6	8.4	4.6	8.2	4.4	7.0
	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	185	57.6	51.5	48.9	57.3	61.8	10.3	7.2	9.2	4.4	6.8
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	175	107.8	106.0	151.2	98.0
10月	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	168	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	26.99	29.84	47.08	55.70	80.24		7.72	201.48	20.27	44.83
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	422.62	8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	410.69	7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	22.08	24.32	47.24	46.55	53.12		8.84	164.36	12.69	48.00
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	337.57	9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	309.02	8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 旭陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、「言葉の特徴」の領域において5.7ポイント上回る結果であった。その他の領域については全国を下回ったものの、昨年度と比較して全国値に迫る結果であった。

＜数学＞ 全国と比較して、すべての領域において下回る結果であったものの、これまで課題であった思考・判断・表現の観点別の問題や、記述式の問題形式の問題の正答率については全国を上回る結果となった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

平均点は大阪府と比較して、国語において3.8ポイント、社会において4.6ポイント、数学において0.9ポイント、理科において0.3ポイント上回る結果であった。

＜課題＞

英語において、府平均を2.6ポイント下回る結果であった。

○大阪市英語力調査(GTEC)において、

＜成果＞

大阪市と比較して、「読むこと」は2.1ポイント、「聞くこと」は1.4ポイント、「書くこと」は1.6ポイント上回る結果であった。

＜課題＞

「聞くこと」は大阪市と比較して、4.1ポイント下回る結果であった。

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

＜成果＞

平均正答率は大阪府と比較して、2年生では国語、社会、理科において、1年生では英語において上回る結果であった。

＜課題＞

数学科において、1、2年生共に大阪府・市を下回る結果であった。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、

＜成果＞

男女ともに8種目中6種目において全国を上回る結果であった。

＜課題＞

男子は握力とハンドボール投げ、女子は握力と立ち幅跳びの種目において全国と比較して、下回る結果となった。

【今後に向けて】

授業規律を確保しつつ、基礎基本の定着を進める。また、生徒の学力向上のために授業改善の取り組みとして主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を引き続き進めていく。